長野・北陸ブロック拠点発表会
在宅医療連携拠点　金沢赤十字病院

地域で療養するということ
～病んでも、老いても住み慣れた地域で生活するために～

2013年2月2日

いしかわ921在宅ネットワーク
http://ishikawa921.net

石川県医師会が、平成23年度に在宅医療を推進する活動を金沢市は3ヶ所で展開

・金沢駅西地区

・金沢元町地区

金沢南地区（泉野保健センター）

＋　隣接する野々市市

金沢南在宅医療推進会議

⇨ *いしかわ921在宅ネットワーク*

対象地域：

金沢赤十字病院の診療圏域の〒921地域

いしかわ921在宅ネットワーク

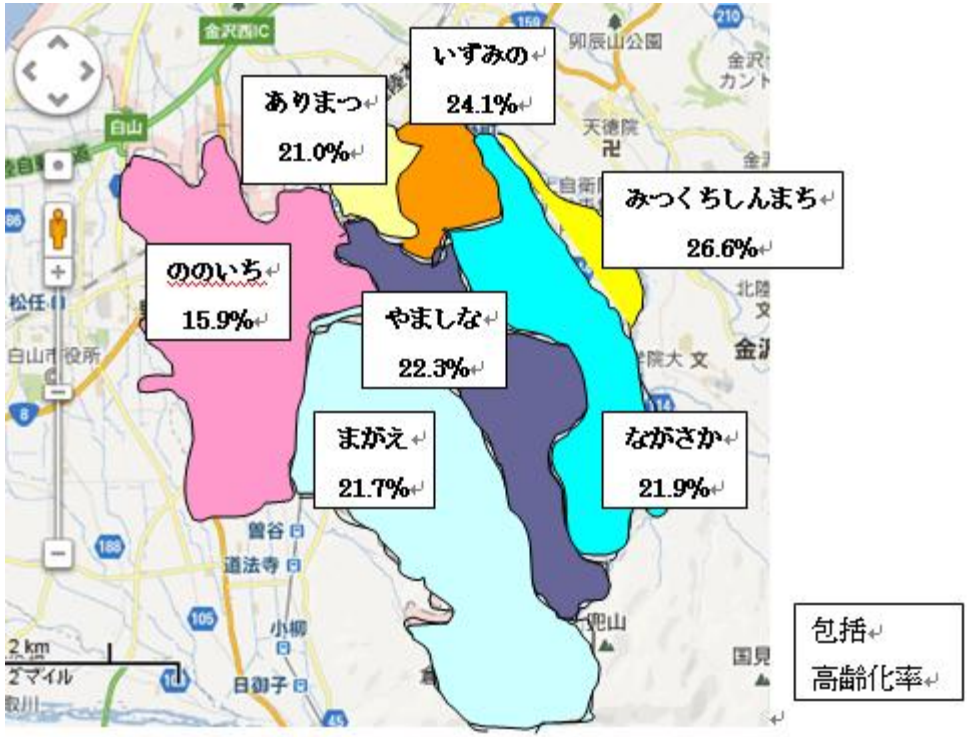
地域包括支援センターごとの高齢化率

対象人口

金沢市南部 123,839人

野々市市 49,562人

173,401人



いしかわ921在宅ネットワーク

地域の特徴

	金沢南地区	野々市市
診療所（うち在宅療養支援診療所）	54（16）	28（12）
病院（うち在宅療養支援病院）	11（4）	4（1）
訪問看護ステーション	13	3

医療、介護、福祉の関連施設数　551！

事業開始の2012年7月～2012年1月末までに
介護関連施設を中心に14ヶ所増えた

お互いの機能がわかりにくい
相互理解が必要
連携の活性化が必要

在宅医療推進のパターン

自動型	・自分たちの事業をもとに拡大する
仕切り型	・公の立場からしくみを作る
コーディネーター型	・地域のコーディネーター役

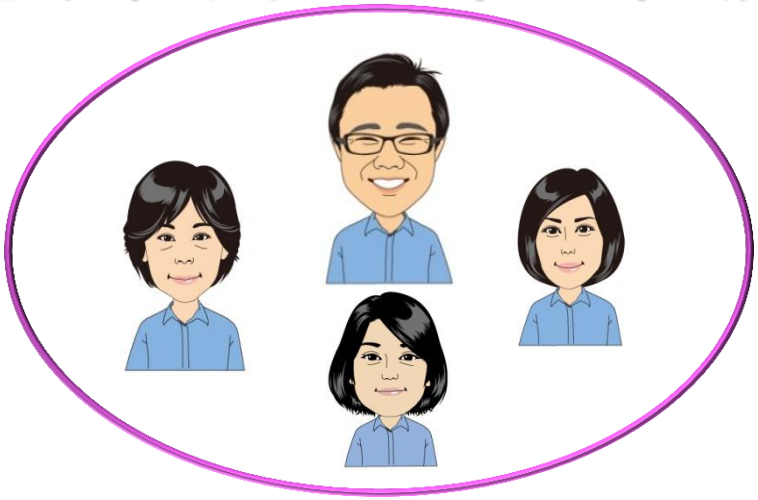
情報集約及び情報提供のハブ
多職種連携を促進する拠点

当院だからできること、
自分たちだからできることを目指す！

いしかわ921在宅ネットワーク

拠点活動の方向性

- 多職種連携の活性化
- 拠点から面への活動展開
- 地域住民への在宅医療の普及啓発



多職種連携の活性化

・課題を抽出する
・課題の解決策を考える
・解決策の一部紹介

課題抽出の方法

- 関係機関アンケート

  対象：921地域の医療・介護・福祉の関係機関
  500ヶ所

  内容：多職種連携において課題であると考えていることは何か？

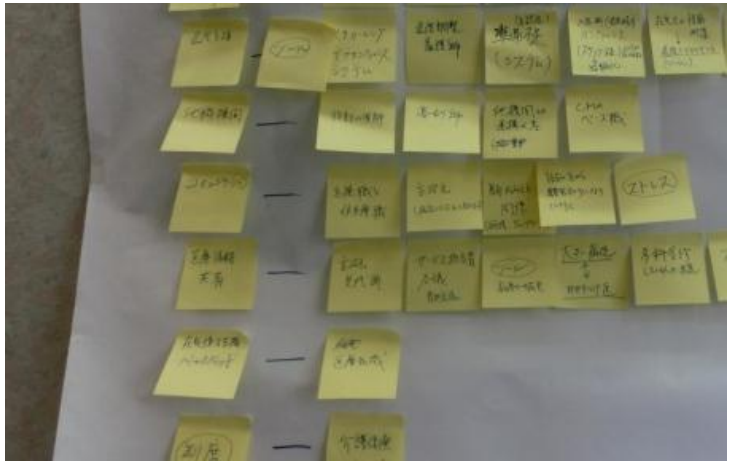
500ヶ所に送付、213ヶ所から回答

多職種連携の活性化

多職種カンファレンスで課題とその解決策を抽出

90人参加、うち医師は11人
函館の岡田晋吾先生が講師
活発な討論

課題を書いた付箋を整理



多職種連携の活性化

課題

1）在宅医療・介護を提供する中での、医療と介護の連携不足

2）在宅医療における医療職間での連携不足

（病院ー診療所、医師ー薬剤師、医師ー歯科医師等）

3）介護従事者の在宅医療に対する知識・技術不足

4）他職種との連携の課題

5）医療介護の関係機関が多く、情報が集約されていない

6）病院従事者の在宅医療に対する理解不足

解決策の一部紹介

1）研修会

・知識・技術習得のための専門研修

・多職種連携のための研修

2）地域の勉強会

3）ホームページ

多職種連携の活性化

1）研修会

研修会回数	グループワークを伴う多職種連携研修会　10 回 講義形式の専門研修会　4 回
参加人数	14 回の延べ参加者　876 名
参加平均人数	62.6 人
ニーズ充足度	関心のあるテーマであったかは、4.7／5.0 点
満足度	仕事に役立つかは、4.5／5.0 点
目標達成度	シラバスの目標を達成できたかは、4.3／5.0 点
新たな顔見知り	多職種連携研修会では、4.6 人と新たに顔見知りになった
研修参加施設	全施設 551 のうち、211 施設から参加があった

多職種連携の活性化

・知識・技術習得のための専門研修会

テーマ	参加者	対象	ニーズ（5点満点中）※1	新たに顔見知りになった人数（人）	満足度（5点満点中）※2	目標達成度（5点満点中）	分かったこと
人口減少時代の医療と福祉の展望	53名	金沢南メンバー	4.5	／	4	4.3 ※「今後の医療と介護の課題を考える参考になった」で評価	／
どこで最期を迎えるのか	134名	看取りを行う施設の職員	4.8	0.87	4.6	4.2 ※「看取りについて考えに変化があった」で評価	・看取りについての関心が高い ・講義形式の研修では顔見知りの関係の構築には至らない。
緩和ケア研修「新宿における地域緩和ケア連携の過去・現在・未来」	37名	緩和ケアに関心がある全職種	／	／	／	／	／
褥瘡研修「DESING-Rの採点法と活用法」	99名	褥瘡に関心がある全職種	4.6	3.3	4.4	4.6 ※「DESING－Rについて知識が深まった」で評	・非医療職の褥瘡についての関心が高い

多職種連携の活性化

・多職種連携のための研修会

		テーマ	参加者	対象	ニーズ（5点満点中）　※1	新たに顔見知りになった人数（人）	満足度（5点満点中）※2	目標達成度（5点満点中）	分かったこと
第1回	H24.7.2	ケアマネージャーと地域包括支援センターとの連携を考える	92名	CM 包括	4.7	／	4.3	4.0 ※「研修の目的が達成された」で評価	・CM,包括双方の関心が高い ・お互いにコミュニケーションをとりたいと望んでいる。 ・CM個人のスキルアップが必要
第2回	H24.10.3	一般開業医の行う在宅医療、地域連携	90名	在宅医療に携わる職種	4.8	4.5	4.6	4.2 ※「在宅医療の課題が解決できたか」で評価	・921地域の多職種は連携について関心が高く、連携は必要であると考えている。 ・多職種と医師、医師同士は顔見知りの関係になることを望んでいる。
第3回	H24.10.11	そもそもリハビリって何？	107名	リハビリに関心がある職種	4.7	4.4	4.2	3.3 ※「在宅医療の課題が解決できたか」で評価	・CMのリハビリへの関心が高い
第4回	H24.10.26	口腔ケアの基本を考える	55名	口腔ケアに携わる全職種	4.5 ※「関心があるテーマ」で評価	6	4.3	4.0 ※「日頃の疑問が解決できた」で評価	・口腔ケアに関する関心が高い ・新たに顔見知りになった人数＝GWの人数から、GWが活発に行えた。
第5回	H24.11.5	お薬のお悩み解決します	56名	医師 訪問看護師 CM	4.8 ※「関心があるテーマ」で評価	6	4.5	4.2 ※「日頃の疑問が解決できた」で評価	・CMの在宅薬剤師への関心が高い ・新たに顔見知りになった人数＝GWの人数から、GWが活発に行えた。
第6回	H24.11.13	これだけは知っておきたい糖尿病の基本	17名	施設職員	／	／	／	／	／
第7回	H24.11.22	在宅医療における薬剤師との連携	49名	在宅の薬剤管理に携わる全職種	4.9	3.6	4.8	4.7 ※「薬剤師の在宅訪問がイメージできた」で評価	・921地区の薬局63箇所の内、20箇所が参加。そのうち50%のみ在宅訪問を行っている。 →在宅訪問に取り組んでいる薬局が少ない
第8回	H24.12.4	PT・OT・ST流　自立に向けた支援方法の見つけ方	51名	リハビリに関心がある全職種	4.6	4.3	／	4.5 ※「リハビリへの理解が深まった」で評価	・リハビリ療法士が、「身近にいない」「気軽に相談できない」と回答した人が66.7%いた。 ・多職種が身近に相談できるリハビリ療法士を求めている。
第9回	H25.1.20	グループワークに必要なファシリテートスキル	20名	金沢南メンバー	4.8	5.2	4.7	4.5 ※「今後本日学んだスキルが生かせそう」で評価	・グループワークが中心の研修会であり、顔見知りの関係が広がった。（最高20人）
第10回	H25.1.24	高齢者の血統管理の目標は？	16名	施設職員	4.9	2.8	5.0	5.0 ※今後糖尿病患者の生活支援に生かせるか」で評価	・介護の現場で実践できる糖尿病の知識を学べたことに満足感が高いことが分かった。 ・施設間のコミュニケーションの場となった。

多職種連携研修会のグループワークの変化

ファシリテーターは金沢南在宅医療推進会議メンバーに依頼し、入念な打合せを行った

↓

グループワークの活性化

↓

新たな顔見知りの関係

→

人となりがわかる関係

→

だれでもファシリテーターを引き受けられる関係

↑

どの研修会でも、グループ発表の順番を争うようになった

多職種連携の活性化

２）地域の勉強会を開催
目的：在宅療養を支える介護職の勉強の機会提供
対象：介護職または非医療職ケアマネジャー

支える医療の学習なので
講師は、医師でなく
認定看護師とした

多職種連携の活性化

3）ホームページ

連携施設情報を公開

http://ishikawa921.net

多職種連携の活性化

医療的処置対応

胃ろう	経鼻カテーテル	中心静脈栄養	在宅酸素療法	気管切開
●	×	×	●	×
人工呼吸器	NIPPU	吸引	透析	インスリン注射
×	×	×	×	×
褥瘡	リハビリの継続	バルンカテーテル	要相談	その他

多職種向けに、各施設の医療的処置対応を掲載

多職種のための連携窓口を開示

《病院長》岩田　章**《 診療科目》**内科（消化器・呼吸器・循環器・内分泌・腎臓・神経内科）・小児科・外科・脳神経外科・整形外科・麻酔科・皮膚科・泌尿器科・眼科・放射線科・婦人科・リハビリ科）**《訪問診療》**していません。**《レスパイト入院》**個別相談。**《書類の申請》**1階の受付が窓口。本人以外の人が代行申請するときには、代行者の身分証明書又は委任状（書式は自由）が必要。**《多職種連携について》**主に電話で連絡をとることが多い。※専門職向けの連携窓口はログインページに掲載しています。

多職種連携の活性化

成果

・グループワークを伴う多職種連携研修会は、新たな顔見知りを作った。

・多職種連携研修会を重ねるに従い、「人となりがわかる関係」に発展し、グループワークが活性化した。

拠点から面への活動展開

・地域包括支援センターとのコラボレーション
・「多職種連携を考える地域連携室の会」の設置
・次世代の人材育成
・人的交流や活動をオープンにすることによって、他地域へ波及

拠点から面への活動展開

地域包括支援センターとのコラボレーション

日程	内容	目的
H24.5.23	第1回意見交換会 「地域包括支援センターとの連携を考える」	地域包括支援センターを統括する金沢市の担当者と地域包括支援センターとの連携を考える。
6.5	第2回意見交換会 「地域包括支援センターと石川県との意見交換会」	各包括支援センター長と石川県担当者と連携についての意見交換を行う。
7.2	研修会開催 「ケアマネジャーと地域包括支援センターとの連携を考える」	ケアマネジャーと地域包括支援センターと顔見知りの関係の構築と、連携が困難である原因や解決策について話し合う場の提供を目的とした。
8. 23	地域包括まがえ地域ネットワーク会議	まがえ地区のサービス事業所同士の顔見知りの関係の構築
計3回	タウンミーティング開催	地域包括支援センターと協働し、地域住民に「地域で療養すること」について普及啓発を図る。
10. 6	白山・野々市在宅連携委員会野々市市部会第1回交流会出席	野々市市の病院・診療所の医師やMSW、介護支援専門員の顔見知りの関係の構築
2013/1/11～1.17	921地区地域包括支援センター取材	921地域の地域包括支援センターに、各センターの特徴、取り組み、今後の課題等を聴取し、921ネットの活動冊子で地域に発信する。

拠点から面への活動展開

多職種連携を考える地域連携室の会を設置

目的：病院と地域の機関との連携を促進する。

地域にある病院同士が、共に地域と連携する。

地域の急性期病院、精神科病院の実務担当者
10病院が参加

連携窓口の明確化
921版情報シートの作成

拠点から面への活動展開

次世代の人材育成

・介護福祉士養成校での講義

多職種連携の実際を語る

グループディスカッションと
講師たちとの質疑応答

拠点から面への活動展開

金沢大学学生との共同研究
「退院患者の療養先選択に関する要因分析」
院内掲示

資料１（金沢赤十字病院掲示物）

「退院後の適切な療養先を決定する要因の分析」

に関するお知らせ

退院後、患者様がご自宅で療養を希望されるとき、患者様の疾病の状態・障害度・生活リズム・家族や介護者・環境などを十分に把握し、退院後の生活が確保できるように環境を整えていく必要があります。私たちは患者様の円滑なご自宅での療養の仕組みを考えるため、患者様の退院後の療養先などを患者様の診療記録や資料を金沢大学と共同で調査します。

調査は本院の医療福祉相談室をご利用され、平成 22 年 4 月から平成 24 年 3 月の間に退院されました患者様を対象に行います。

この研究では対象となる方に直接治療などを行うことはありません。過去の診療記録について調べるものです。

調査は個人情報の漏洩しないように決められた方法に従って細心の注意を払い行います。また個人情報などプライバシーに関するものが公表されることは一切ありません。

この調査を行うに当たり、この調査をされることを断ることもできます。もし、お断りになられたとしても、治療などの点においてあなたに不利益になるようなことはありません。調査を希望されない場合は、平成24年12月31日までに、医療社会事業部　河原久美子までお知らせください。

平成24年9月
河原久美子
金沢赤十字病院
医療社会事業部　医療福祉課長
電話 076-230-1030

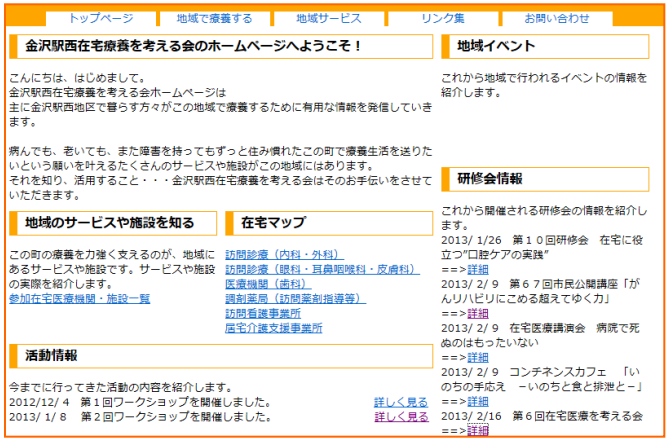
金沢大学担当責任者
荒井国三
920-1192　金沢市角間町
金沢大学医薬保健研究域薬学系
電話 076-265-2833
FAX　076-234-4212

「望ましい終末期医療に関する意識調査」
金沢大学学生　データ収集の支援

拠点から面への活動展開

成果

- 地域にある病院同士が一つのネットワークを作り、地域に働きかけた。
- 学生の教育、共同研究に参画し、次世代との意見交換ができた。
- いしかわ921在宅ネットワークのノウハウは、グループ内や近隣の他地域で活用されている。



金沢駅西在宅療養を考える会
ホームページ

地域住民への在宅医療の普及啓発

・住民アンケート
・ホームページ
・タウンミーティング
・市民公開講座
・メッセージブック

地域住民への在宅医療の普及啓発

住民アンケート

目的：対象となる地域住民の在宅医療や在宅療養に関する意識を把握する。

調査対象：金沢南地区、及び野々市市の成人、550人

調査項目：「内閣府　平成19年度高齢者の健康に関する意識調査」をベースに調査票を作成した。

調査期間：平成24年8月27日～10月末

＊調査に当たって、金沢赤十字病院倫理委員会の審査を受けた。

配布が課題！！
- 金沢南在宅医療推進会議メンバーや、
- 病院ボランティア
- 地区婦人会
- 地区社協など
- 今までのネットワークを活用。感謝

婦人会の皆さん

調査内容
- 属性
- どこで介護を受けたいか
- 延命治療の意向は？
- 終末期はどこで過ごしたいか

地域住民への在宅医療の普及啓発

住民アンケートのまとめ　資料別添

- 921地域（金沢南地区、野々市市）の成人550人に、在宅療養に関する意向調査を行った。調査回収率は72.2%、有効回答数は349であった。

- 「介護が必要になったときの療養場所」に自宅を選択したのは30.1%、
- 「終末期になったときの療養場所」に自宅を選択したのは40.7%
- どちらも国の同様の調査と比較して、10%以上低い。低い理由は、病院や施設の数、就労時間、介護する側の意向などが関与するのではないかと推察した。

- 本調査の結果を踏まえ、いしかわ921在宅ネットワークでは、在宅療養の場所を自宅に限定しない「地域で療養する」という考え方について、地域住民に普及啓発することが必要だとわかった。

地域住民への在宅医療の普及啓発

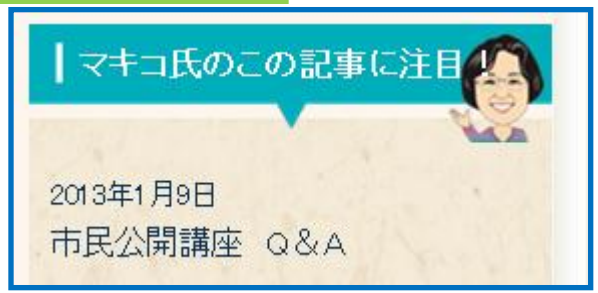
ホームページ　http://ishikawa921.net

2012年12月7,330人のアクセス

地域住民への在宅医療の普及啓発

住民目線での在宅療養に関する情報発信

住民からの質問



専門職の動き

自分はもちろん、家族や身の回りの知人に訪れる老いや病。だれもが「どうしたらいいの」と悩み、目に見えない不安を感じます。そんな時、自分たちの中だけで考えず、いしかわ921の地域のサービス施設に連絡をしてみてください。たくさんの経験や知識、そして何よりもいしかわ921の地域の顔の見えるネットワークで、みなさんと一緒に、安心できる方法を見出すことができます。

事例で学んで、しっかり理解！

病院から2週間後の退院を迫られている石川さん。奥さんとともに、このまま自宅で生活できるのかと途方にくれていますが…、

【石川さんの事例を見る】 クリックすると事例がご覧いただけます

事例を通してサービスを説明
地域にあるサービスを紹介

地域住民への在宅医療の普及啓発

タウンミーティング

テーマ：地域で療養するということ

～病んでも、老いても住み慣れた地域で生活するために～

目標：地域住民が、自分の終末期について考え、大切な人に伝えておくことの重要性を認識できること

紙芝居を使って話しました

- 在宅医療が必要な理由
- 在宅生活を支えるサービス
- 入所施設の紹介
- 地域で生活すること
- エンディングノート

地域住民への在宅医療の普及啓発

市民公開講座

テーマ　：　人生の終い方を考えていますか？
～共に考え、語り合うために～

基調講演　新田國夫先生（北多摩医師会長）
パネラー：　福島医院、泉野訪問看護ステーション看護師、
芳珠記念病院（意思確認書）リスクマネジャー、
野々市市包括支援センター保健師

目的：　・人生の終い方を考え伝える啓発
・在宅医療の実践を啓蒙

地域住民への在宅医療の普及啓発

メッセージブック

目的：住民が在宅医療について考え、自分や周囲の在宅医療を必要な支援を受けながら自ら選択できる力をつけることを支援する

表紙に用いる保育園児の絵

聞き書きで聴取した、療養体験者の思いを形に

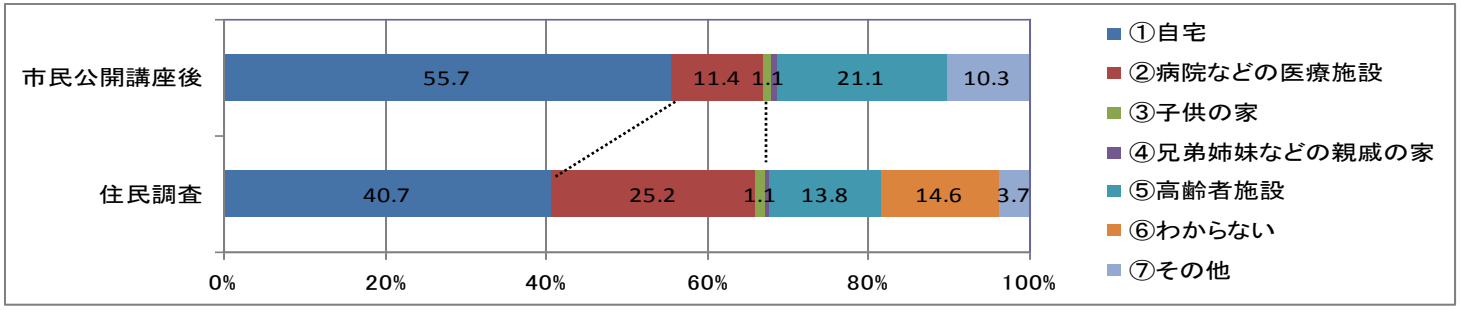
3月下旬までに。小学生高学年にもわかる平易な文章で、
広い世代にメッセージを伝えたい。

地域住民への在宅医療の普及啓発

成果

- 住民目線でホームページを構築し、12月には7千件以上のアクセスがあった。
- 在宅医療の普及啓発活動は、住民の在宅療養への意識に影響を与えた。

市民公開講座後のアンケート結果と住民調査を比較



- 地域住民は、在宅医療や終末期医療に関心があり情報を得たいというニーズがあることがわかった。

成果のまとめ

- 拠点活動は、地域の多職種の顔見知りの関係を促進した。さらに、活動を重ねる中で、顔見知りの関係が「人となりがわかる関係」に進展した。
- いしかわ921在宅ネットワークのノウハウや活動は、近隣の他地域で活用されている。
- 地域住民への普及啓発活動は、地域住民の在宅医療の理解を促し、意識の変容に関与した。

いしかわ921在宅ネットワーク

いしかわ921在宅ネットワークの活動は、地域の多職種や地域住民に対する在宅医療の推進に役立っている。

しかし、研修会等への参加が少ない施設があり、病院と地域との連携も取り組みを開始したところである。金沢南地区での、在宅ネットワークの継続が必要である。